

全国のキーパープロショップの皆様へ

2025年12月キーパー選手権『ご案内』

◎テーマ



◎開催期間

2025年12月1日(月)～
12月31日(水)までの1ヶ月間

◎競技方法

全国のキーパープロショップがキーパーコーティングとアラカルトの施工台数をポイント(P)に換算して、合計ポイントを競います。

◎入賞及び表彰について

入賞店には表彰楯、販促品目録を進呈と、キーパータイムズ・Webサイトに掲載させていただきます。

●日本一を決める全国ランキング

全国上位
10位まで入賞



全国優勝
販促品目録10万円分



全国2位
販促品目録7万円分



全国3位
販促品目録3万円分

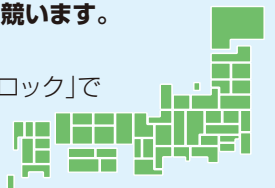
全国優勝、2位、3位を
獲得された店舗より2名ずつ、
香港キーパープロショップ視察と、
香港の旅にご招待。



●都道府県ランキング

今回の県別ランキングは、
47都道府県毎で競います。

キーパーラボは、
「キーパーラボブロック」で
競います。



◎ポイント集計の方法について

キーパーコーティング・アラカルトを受注した店舗でポイント集計をおこなってください。

【例】コーティングセンターなどで施工をおこなっている場合は、そのセンターではなく、キーパーを受注した店舗でポイント集計をおこなってください。

※詳しくは営業担当にお問合せいただくか、
キーパープロショップ通信をご覧ください。

◎参加方法

2025年12月キーパー選手権『ポイント集計FAX表』にポイントをご記入のうえ、3回に分けてFAX又はメールをお願いします。

1回目のポイントの報告FAX又はメールが、そのまま参加登録になります。

企業単位の集計も可能です。店舗毎に入力が出来て一度にポイント報告できる専用のポイント集計表(エクセル版)をご用意しています。

SUPER GT 2025 ●第8戦(最終戦)／11月2日(土)・13日(日)モビリティリゾートもてぎ(栃木県)

[GT500] #38[KeePer CERUMO GR Supra]

最終戦7位。チャンピオンには届かなかったもののチャレンジゆえの結果

ドライバーランキング／3位 チームランキング／5位

前日の公式予選では、見事ポールポジションを獲得。これ以上ない舞台から、悲願のシリーズチャンピオンを目指し臨んだ。決勝のスタートドライバーは石浦宏明選手。ラストドライブに向けコクピットに乗り込み、1周のパレードラップに続きスタートを切った。ポールポジションからまずは1～2コーナーを制しトップを守ったものの、履いていたのはわずかに気温が高めのコンディションを想定していたもの。ウォームアップにやや苦しみ、4コーナーに向けた攻防の中でわずかにホイールスピン。2番手スタートの#1「au TOM'S GR Supra」、さらに3番手スタートの#12「TRS IMPUL with SDG Z」に先行を許してしまう。3番手を守りながら、2番手とのギャップを縮めていった。石浦選手は燃費走行に切り替え、ピットでの逆転を目指すことに変更。21周を終えると、ピットイン。2番手の#12も同時にピットに入ることになったが、#12を上回ること成功する。大湯都史樹選手は気合十分で猛然とピットアウトしていった。目指したのは、トップの#1を上回ること。しかし、アウトラップの90度コーナーで大湯はタイヤをロックアップさせてしまいコースアウト、2つポジションを落としてしまう。さらにタイヤにフラットスポットができてしまった。GT500クラスの全車がピットストップを終えると、5番手に。その後、後方から迫った#39「DENSO KOBELCO SARD GR Supra」の先行を許してしまう。その後、7台のGT500クラスのライバルたちが迫り、集団を従えて走る我慢のレースを強いられることになった。

51周目、ついに#37「Deloitte TOM'S GR Supra」の先行を許してしまうと、翌周には#8「ARTA MUGEN CIVIC TYPE R-GT」にオーバーテイクを喫してしまう。チェッカーまでなんとか耐え続け、大湯選手は8位でチェッカーを受けることになった。レース後、2位だった#12が失格となったため、最終順位は7位となった。



TGR TEAM KeePer CERUMOでのラストレースとなった石浦選手は、チームの成長を実感し、やり切った充実感とともに笑顔を見せた。

[GT300] #61「SUBARU BRZ R&D SPORT」

激しいバトルを制し、2位表彰台で今季を締めくくる

ドライバーランキング／9位 チームランキング／9位

予選は、2番手と圧倒的な差をつけてポールポジションを獲得。山内英輝選手はこのポールポジション獲得で、16回目のポールとなり、現役ドライバー最多獲得回数を更新した。決勝、スタートを担当した井口卓人選手は綺麗にホールショットを決め、2番手と周回ごとに差を広げることに成功。

チームはドライバー交代を25周目付近に設定し、後続を引き離す作戦で展開。ほぼ予定どおりの27周目にピットインをし、山内英輝選手と交代。山内選手は実質3位のポジションでコースに戻り、トップとは約10秒差。みるみるギャップを縮め、交代から10周程度で3.5秒ほどの差に縮める。しかしそこからの追い上げは鈍くなる。レース後に聞けば、タイヤのグリップが落ちてしまい、厳しい状況だった。それでも山内選手は2位争いの激しいバトルを制してチェッカーを受けた。



[GT500] #100「STANLEY CIVIC TYPE R-GT」

タイヤ無交換で後半厳しい戦いに。3位で終了

ドライバーランキング／2位 チームランキング／2位



今シーズンをもってSUPER GTから“卒業”するラストレース。決勝、7番手からのスタート担当は山本尚貴選手。果敢な走りでも4位へと浮上。24周終わりでピットに飛び込み、牧野任祐選手へと交代。タイトル奪取を狙うためタイヤ無交換の戦いを敢行。序盤からトップを走っていた#1「au TOM'S GR Supra」の前に出てレースを再開。しかし、新しいタイヤを装着した#1がペースアップしはじめると、29周目の3コーナーのブレーキングで先行を許すことに。さらには後続の#12「TRS IMPUL with SDG Z」も#1に続いた。ユーズドタイヤでのペースアップは難しく、#23にも逆転され、実質4番手になる。周回を重ねていったが、GT500クラス同士の車両接触が発生、FCYが導入される。わずか1分ほどで解除となり4位でフィニッシュ。レース後の再車検において2位の車両が不合格になり3位を手にした。シリーズランキングでは2年連続の2位となった。